大正十二年十二月二十四日第三種郵便物認可 毎月一回十五日發行
大正十四年三月十日印刷納本 大正十四年三月十五日發行

光

第三十九輯
大正十四年三月

◆「おひかりの心」について……西田天香
◆ある奉仕生活者の夢……谷口雅春
◆托鉢三昧にまで……住田蓮車
◆筑紫夜話……柳原舜祐

同人懺悔報恩の奉仕者
祈願 不二の光明によれる生活
費用 供養されたる淨財

◆天香師にあてたる(一)……鈴木五郎
◆「働く者の家」より……敬偉無
◆迎光雜詠……舜祐
◆クリスト敎社會主義史(四)……松下吉衞

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し許されて生きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ他に障りなき生涯を送らざる可からず。

諸宗の眞髓を禮拜し歸一の大願に參ぜむ。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆倶成就大圓覺

別願　將來世界眞平和

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し報恩の爲に行乞せむ。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脱るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の清規に隨ひ世諦を成ぜむ。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生産業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せむ。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至清規戒行も、此の見地よりすれば即ち一の遊戯三昧に過ぎず。憾むらくは個中の消息、もとより言辭の攀じ得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尚自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその清規を守ることによりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷紛爭葛藤を根絶し、以て齊家、治國平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

『おひかりの心』について

――神戸光の友會にての講話――

西田天香

『おひかりの心』といふことについて話せとのお望みに答へさせてもらひます。

私が時々頼まれまして已むを得ず、柄にもなく揮毫させてもらひます語のうちに、一〇相の下に『この心この身このくらし』といふのがあります。此一〇相はおひかりのことでありますから、おひかりの心、おひかりの身、おひかりのくらしとなるのです。心だけの救ひはなく、身だけの救ひもなく、又くらしだけの救ひもありませぬのが、どうしたものかいつの世も心だけ、または身だけ、生活だけとなり易いのです。すべての宗教の教祖方はかならず此三つを兼ねていられますに、はなれ〳〵になるのは、生活全部を打出して捨て切らない爲めなのでしようとおもひます。一燈園生活は兎に角その歩み出しに於て、一度すべてを捨て切つて出るものですから（又許されてもとの家を預るにしても）自から此三つが具はります。身體を調へないで信心いぢりは心だけとなります、靜座又は體育にのみよるのは身だけになりやすい、此二つが幸ひに調ひましても、まだ現代では足らないことになるのです。それが生活上の問題の起る所以とおもひます。生活上の問題を解決せない宗教が役にたゝぬといふの

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

は此爲めです。しかしそふ言ふて起つ唯物史觀及是等に類する運動も、また生活だけになり勝ちなので、行きつまるのでありますまいか。こんな事を考へて私がおひかりの生活を始めたといふのではありませぬが、偶然惠まれた一燈園生活には此三つがチャンと小さいなりに調ふて居ます。それに私は頭が下つたのであります。

弘法大師は三密相應とか申されるそうです。身口意の三密が相應するときは父母の產みつけた此肉身が大日如來となるとあります。これには生活即くらしの密が加つてない樣ですが、それは始めから、大師の生活が出家沙門の姿であつて、生活は佛の作法に則つていられるからであるとおもひます。からして若し妻子を持ち產業を持ちして大日（大理想の生活）となるには、新たに生活の密（密とは極意といふほどのこと？）を持たねばならないことになります。世間の生活改造などはココをねらつてゐるのでありましよふが、囚はれた心意識での改造の目安は、所謂本能を大切に扱ひましようから、正しゐ生活にならぬかも知れませぬ。密は即極意で正しい事を意味しましよふから、人類全體の調和を妨げないはづのものであり、隨つて清淨な神聖なものであるべきだと思はれます。

一燈園生活は、一番始めに、此生活の密を行ずる事ともなるのです。からして世間にも心配をかけ、各種の宗敎家からも異端の樣にいわれ、時には倫理道德にも背く樣に見へるのですが、事實は各種の生活改造の目安よりは、もそつと深みのある。落付いた自利々他的のものであると私は信じます。こ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

れを認めない宗教と倫理道徳は、往きつまつた現在の生活狀態を押やりに肯定していたいからか、今一つは嚴肅な生活を窮屈がつて、只一般の財物を平均しやうとしたいからであると思ひます。若し人が全體が理想化するまで待つては居られず、他を無理に强いないで、自分先づその生活の密を持たうと思へば、一度思ひ切つて周圍の縛から飛躍せねばならぬ事になります。それをするとそこに一種の動搖が起り、或は異端呼ばはりをされることともなり、又はそれが光耀的刺激ともなるのです。結局は自他共救はれる事になると信じますが、此飛躍を恐れては、園の生活は產れて出ないのであります。

此生活を「おひかりのくらし」といひますが、是から始めますと、おひかりの身、おひかりの心は割合に苦しまずに手に入ると思ひます。それに反して、此くらしを前のまゝにしての心と身の修養は假令或程度まで練り上げましても邪定、野狐禪、わる落信心などになると思ひます。一度たとへ一日でも一殺那にても少しもゴマカサズに、生活の密を持した上ならば、いひかへれば一度捨てきり死にきつた上ならば、直ちに前生涯のすべてをあらためて預り、己れの身已れの家庭の慾ならで、それを正しく扱ふことが出來ましようが、執着の故に捨て切る事が出來ないでの生活をそのまゝで、心だけまた身だけの救ひは斷じてあり得ないと私は思ひます。からして世間に色々と心配をかけますが、一燈園はこれを第一の大切な事とするのであります。

今迄の資本主義の生活でもなし、また反資本主義の體度でもなしに居て、深く正して且堅く、所謂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

本能と妄念からは秘密に見ゆるおひかりの生活をすることによつて、別の世界に歸るのであります。『おひかりの心』は、このくらしから始めるときにはつきりとします。長い年の經驗によりますのに、園の生活をなさる人が、その歩みをするうちに、時々不圖「おひかりの力ですな…」などと感歎の聲を出されます。それが誰れに押しつけられた説敎からでもなし、いひたいとも思はぬのに、不思不識出るのです。何が故にと問ひ質しても決して説明は出來ませぬ。説明が出來ないでもハッキリとして居ます。神學の研究や經論の考察や、聞かされる説法やらからでなくて、只托鉢をしてゐることによつて、ア…これだ！、アゝありがたい、などゝ直覺して、誰れが何といふてもどうすることも出來ないやうになります。此樣子を「おひかりですな…」とさけばれるのです。無論私などが敎へ申すまでもなく、外に誰れが導くといふこともなしに、それが自然に出てまゐり、家なきつどひの路頭が我家のやうに思はれて、嚴然としてある親の家へ歸るにも「一寸托鉢しに行かせてもらひます」などと落付いて挨拶をしてゆかれるのは其內容が、いつのまにか大きな世界に歸られた爲めであると思ひます。かやうに「おひかりの心」はいつも説明なしに托鉢身からかゞやいて出てまゐります。之れをもし逆に見ますと、「おひかりの心」はおひかりのくらしを餘義なくされるといふことにもなります。「おひかりの心」がハッキリしてゐて、おひかりのくらしにまで生活が改まらなければ、それはおひかりの心といへなくなる。おひかりの身とかわらないときには、おひかりの心を持つともい

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

くなるわけであります。

茲に於て一の問題が起ります。おひかりは、基督教の神、佛教の佛、また儒教の天などと一つであると云ふてはないか、然るにそれらの専門の人達が扱ふ神佛天と何だか違ふやうであるからには別のものであらう、といふ疑問であります。之れに對して私はこふ申したい『私しの信ずる神はこふしたくらしを要求します、私の信ずる佛は一度此くらしを通らせなさる、私の信ずる天はこゝ迄ゆけと命じなさる、』とであります。他のそれがちがふちがわぬなどは申さない、私は他のことは分りませぬ。たゞかくさゝれる強い力のありてこそ私の眞の生命となるのです。その眞の生命をもらふからして様々の生活のうちにも托鉢身ではいつてゆけるのです。前生活よりもそつと不淨の處へも托鉢が出來るのです。御不淨を越へ、是不是を越へ淫女の姿ともなつたり、互通の仙人の樣にもなれると維摩經にもある通り神變不可思議な世界が生れてくるのであります。私は此神を信じ此佛を信じ此天を信じます。そうしてそれをおひかりと申します。かくいたゞかせてもらふ心を「おひかりの心」と申したいのであります。

「おひかりの心」はどんなものかと云ふ問ひかたは無理であります。むかしから佛とは何ぞやとの問ひに説明をしたがる先覺はないかとおもひます。拈華微笑とか、曰無とか、信じて知れとか、冷暖自知とか、捧唱とか、要は無説明の傳印に終つています。問ふことも答へることも野暮なことでしよふ。只一燈園生活では、此生活をすることが、一番「おひかりの心」を体驗するに便宜であるとは申します。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

或る奉仕生活者の夢

——神と青年との對話——

谷口雅春

神。ずゐぶん好い修行が出來てゐる。

青年。苦しくてたまりません。

神。出來るだけ苦しむが好む。それで靈魂が進化するのだ。

青年。進化どころか退化して行くやうに思はれます。

神。（憐れむやうに青年を瞰下す）それで好いのだ。

青年。此の板挾みから救ひ出して下さい。

神。救ひ出すことはまだ出來ない。此の境遇にお前をおいたのはわしなのだ。

青年。あなたが？……あゝ……

神。此の苦しみがお前を鍛へる。お前はまだまだ鍛へられねばならない。

青年。まだ〳〵ですか。

神。此麼ことは苦しみの入口に過ぎない。

青年。わたしにはもう背負ひ切れない氣がします。

神。お前に背負ひ切れない程度には荷は負はせてはない。お前は自分の苦しみを誇大して考へてゐる。

青年。オヽ！……此の心の汚れから脱却するのには……一切を棄てゝ再び十字街頭に立てとでも被仰るのですか。………

神。自分で考へて見るが好い。わしは知らない。お前が十字街頭で氣樂に奉仕してゐるのを、此の境遇まで引落したのもわしだからな。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

青年。………

神。お前は十字街頭でたのまれるまゝに何事でも無罣礙に奉仕しながら、自分の執着の少なさを誇りとしてゐた。萬人よ、爾曹われにならへ――と云ふやうな氣負つた心持をもつてゐた。お前は萬人が自分と同じやうな生活に出られないのを、捨て得ない我執のためばかりだと思つてゐた。わしはお前を反省させようと思つたのだ。それでわしはお前に妻を有たせ子を有たせたのだ。

青年。…………

神。妻も子も有たないお前の以前の身で自由に捨身的な奉仕が出來るからつて、お前は妻も子も有つ人々が身を捨てゝ奉仕が出來ないのを責める資格はない。萬人は同じ生活に出ることは出來ない。自己をもつて他を計つてはならない。お前は此迄どうも萬人がお前のやうに無所有無執着になり得ないのを憤る氣持でゐたからな。

青年。わたしの心は審判(さばき)で滿ちてゐました。だけど、いまこそわたしの心は摧かれて了ひました。

神。お前は妻を有つてもその妻が健康である間は、妻と一緒に無所有の生活を送ることが出來てゐた。いや、妻が病氣になつた時でもお前の日頃の奉仕は隣人の同情で充分妻を看護し得るだけの福田をつんでゐた。けれどもわしはお前を試みるためにお前の妻を妊ましたのだ。

青年。あゝ………

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

神。お前はその儘の狀態で、お前の妻が子を產んだからつて、お前の生活振はお前の隣人が知つてゐる。お前の隣人はお前の妻や子の生活を保證して吳れたにちがひない。それでわしはお前の隣人たちを大地震の火で燒いたのだ。それでお前の隣人はお前たちを助けるための何物をも有たない狀態になつて了つた。それでも隣人はお前を助けて吳れた。兎も角もお前の妻が臨月でありながらお前たちが無事でゐることが出來たのは隣人がお前たちを救けて吳れたからなのだ。それでお前は震災地を逃れて無事自分の養父母の家へ歸ることが出來たのだ。そこにはわしがあらかじめ構圖しておいた試鍊の場面が待ち構へてゐた。

靑年。（呻く）…………………

神。お前は此の苦しみに耐へなければならない。此の苦しみに耐へる時お前の靈魂は始めて淨化されるのだ。わしが構圖した試鍊の場面は苛辣なものにちがひない。お前は極めて精神的に出てゐるし、お前の養父母はきはめて物質的に出來てゐる。わしはお前が養父母の家を根據として奉仕の生活に入らうとする時、お前の養父母はすぐそれに反對するやうに仕組んで置いた。

靑年。養父はかう云ひました——お前がさう云ふ生活に這入るから此の六十を越したわし等が我利々々妄者の生活を送らねばならない——って。

神。それでお前はどう答へたのだ。

靑年。わたしはまた斯う云ふ無執着な生活を送

つてゐるのに見做つてさへ貰へば、萬人が幸福になり得ると云ふ證據を示さうと思つてゐるのです――と答へました。

（神の姿消えて、養父の姿に變る）

養父。お前はまだそんな他愛もない馬鹿なことを云つてゐるのか。お前くらゐ我れよしの者はない。自分だけ無執着な暢んびりとした生活を送つてゐれば、親はどうなつても好いと思つてゐるのか。お前はそんなふら〳〵した生活を送つてゐる。我々は段々年をとつてゐる。お前には子が生れてゐる。しかも人間は老少不定ぢや。お前は身體が弱いからお前の方が先に死ぬかも知れない。お前は子供のこともちつとは考へて見るが好い。お前が若し子供を殘して死んだらそれを吾々が養はねばならない。だからお前が子のために後の計らひをしないだけ、われ〳〵兩親はお前の子供の爲に二倍に我利々々妄者にならなくてはならないのだ。お前のやうな生活は人の心の執着を少くさすのではなく、自分が執着を捨てゝ氣樂になるかはりに、自分の負はねばならない執着をこの六十の坂を越した兩親に轉荷するのだ。

青年。……あゝ……だけどそれは貴方がわたしと同じ信仰に這入つて下さらないからです。……神樣！（瞑目する）

（養父の姿、次第に神の姿に變ず）

神。すべて萬人を救ふ道に立つた者は、昔からひとたびは父母に背いた。釋迦がさうだ。耶蘇がさうだ。フランシスがさうだ。心配しな

いが好い。あるべきことが皆あるに過ぎない。

青年。けれどもわたしは打ち摧かれました。わたしはドン底へ墮落して了つたのです。再び起き上る力がありません。わたしは釋迦にも耶蘇にもフランシスにもなる事はもう出來ません。わたしは父母にそむいても子供にそむくことは出來ません。子供の養育を他に托することが出來ません。倉田氏が『布施太子の入山』に書いたやうに、自己の成道を目的に、子供を暫く惡漢の手に托するやうなことは出來ません。

神。お前は大圓覺を成就するためには、手足を求むる者には手足、眼球を求むるものには眼球を供養するを以つて理想的境地だと說いたことがあるではないか。それに自分の子供の養育を人托にすることすら出來ないのか。

青年。……（呻く）出來ない！ どんなに多くの兒童が、育兒に何の考へもない人達の手で精神的にも肉體的にも惡くされたか。道樂に養鷄をする人々でさへ、少し熱心な人々はその道の參考書を讀んでゐます。それだのに子を育てるのに育兒書の一頁も讀んでゐない人々がザラにあります。そんな人たちに私の子の養育を托することは出來ません。決して出來ません。一人の子を養育することは『公け』の問題です。

神。わしにまかし切つたら好いのだ。お前自身が育てたからつて、あらゆる方面に於て完全に注意し切れるものではない。お前がいくら力んでゐても人間には隙のあるものだ。お前の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

子供は腸を悪くしてゐるだらう。(嬰兒の泣聲きこゆ)

青年。悪くしてゐます。

神。お前は何故お前の子が腸を悪くしたかわかるまい。(嬰兒の泣聲きこゆ)

青年。隨分注意してゐるつもりなんですが。何處が不可なかつたのでせうね。

神。わしにまかし切らない限り云ふことは出來ない。

青年。なほりますか。

神。とてもなほらないだらう。(嬰兒の泣聲)

青年。とてもなほりませんか。そんなことはありますまい、癒して下さい！

神。お前は自力で子供を育てゝゐるからわしの力は及ばない。(嬰兒の泣聲)

青年。とても癒りませんか。(泣く。暫くして妻を呼ぶ)

(神の姿次第に消えて妻の姿に變ず)

青年。赤ん坊の容態は？

妻。今、醫者が來て、どうも今晩が難かしからうと被仰つてゐます。腸洗滌をされましたが、變な不消化なものが出て來ました。

青年。どんなものが出て來た？

妻。つぶ餡のやうなものが澤山出て來ました。

青年。やうぱり養父母が隙をうかがつて與へたのだ、(蹌めく)此麼ことになると思ふから、自分はあの子を養父母にまかして再び奉仕生活に復ることが出來なかつたのだ。わたしの養父母は赤ん坊に何でも食べさせれば愛してゐると思つてゐた。だからわたしは常住嬰ん坊の側にゐてそれを見まもつてゐなければならなかつた。………それに(部屋の中を歩きまはる)常住見まもつてゐても此の始末か。あゝ〱！

(連りに歩き廻る)

(妻の姿消え神の姿に變る。光明赫灼。)

神。(嚴かに)人間には隙があるのだ。隙がないのはわしだけだ。わしにまかせ！

(青年、ひれ伏す。神の姿眩ゆき光明に包まれ、その光明の中に沒して青年の姿見えなくなり、やがて神自身の姿も消ゆ。)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

托鉢三昧まで

住田蓮車

同人のKさんといふ方があるお家へ托鉢に行かれました。

そのお家は妾宅であつたとのことです。いろ〳〵御用をさせていたゞいて居りますうちに、そのお妾さんの方が、Kさんに、

『此のごみを、お隣りのごもく箱へ目付からぬやうに、隙を伺つて、捨てゝ來て下さい。』と言はれたさうです。

道義的觀念の強いKさんには、此の一言が大層強く胸にこたへられたので、『さういふことは出來ません。』とことはられました。するとその方は感情を害されて、それからは、夕方、托鉢を終へてお暇するまでの三四時間を、とうとう、Kさんに對して、一言も物言はれなかつたさうです。

その態度に接して、Kさんは、更に二重の惑惱を受けられたのです。――一體、一燈園生活者は、此のやうな非道義的なことを托鉢先きの方から頼まれた際には、どうしたらよいのか。自分にはそのやうな不德義なことは出來ない、斷つて良いものだらうか。斷ると、此の場合の如くに、托鉢先きの方の感情を害させる。托鉢に寄んで下された家の方の感情を害させるといふことは、善くないことだ。

――此のやうに、三四日程思ひ惱まれてから、Kさんは私にそのお話しをされて、どうしたら良いものかと、たづねて下さいました。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

私は申しました。

『先づ、そのお妾さんの方を怒らせたといふことについては、此方のお斷りのしやうが、態度が惡かつたのではないかと思はれます。あひてゝの道德的低級さを責め、乃至は嘲るやうな氣持がこちらにありはせなかつたでせうか。』

『ありました。』

『私達托鉢者は、いかなる場合にも、托鉢さきの方から言ふて下すつたことは、自分の計らひによつて拒むべきてはありません。もしそれが、世の道德に背いたことであるために、それを爲すべく、心が苦しみ、耻らふならば、私達はそれを拒むのではなくして、爲し得ぬ自分をお詑びするのです。他の問題ではなくして、私達自身の問題ですもの。どんなに困難なことでも、容易に爲しうる神通自在の私達でありたいではありませんか。爲しえぬのは、心がそこまで純粹になつて居らず、生活がまことに高められて居らぬからです。』

『どんなことでもですか。』

『さうです。どんなことでもです。まだ、あなたの場合なぞは、かう見て來ると生優しいことではありませんか。解りよくするため、少し極端な例をとれば、私達が泥棒をして來いと言はれたとする。托鉢三昧でありえたら、矢張り、それも出來ることです。そこに礙りは發らぬでせう。出來ないのは、私達自身の賢しらな智慧や我見が、直ぐに頭を擡げ出すからです。さうして、そこに罣礙の種子を蒔きます。

天香さんが、曾て言はれたことがあります。

「托鉢は言はれたまゝに、此方の心に、些しの無理も抵抗も感ぜずにすることが出來るやうになつたら、本物です。善い惡いを考へる。考へるそれだけの分子が我なのです。光まかせになり切れて居らんからです。右を向けと言はれた、何で右を向くのか解らんが、その言葉のまゝに、素直に右を向けたらいゝのです。

またこんなことを、矢張り天香さんから、雜談の折におきゝしたことがあります。

「昔、仕舞を少しばかり習つたことがあります。その時、佛倒し、といふことをさせられました。それは、立つてゐると、先生が扇のさきで、此方の胸を突くやうにすると、その突かれるまゝに、後方へ、次第に、倒れて行つて、そのまゝバタリと倒れて了ふのです。半分位行くと、もう駄目です。何處かから、グウッと突かい棒が出て來ます。型だと思つて、倒れるには倒れますが、どうもギコチない。その時、成程、佛倒しとは、うまく言つたものだと感心させられました。佛さんだらう、定めし些しの無理も、ギゴチなさもなく倒れられるだらうと思ひました。」といふことです。

本當にさうだと思ひます。私達は、これが稽古だからと思つて倒れやうとしてさへ、倒れることが出來ないのです。倒れるどころか、無理をしてゞも、跳ね起きやうとする心の方が勝つてゐます。

若し、私達が是非善惡の判斷を先に立てゝ托鉢にかゝるものとしたならば、恐らくは、私達の足は、たゞ前後左右を見廻したまゝで、何方

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

へ向つても一歩も踏み出すことは出來ず、そのまゝその場所に立ちすくんで了ふより外なくなるでせう。さうして、更に思へば、斯くして、今自分自身が立ちすくんで居るその場所さへも、果してかうしてゐていゝのかどうかも解らなくなつて來るでせう。

さうして、然うした行き方こそ、私達が曾てそれより背き來つた處の我慢の生活、世間法による生活、一燈園以前の生活ではなかつたでせうか。

そこでは、敏感な心情を持つた人々は、疑惑と怖れに滿ちた眼を以て、皆立ちすくんで居ます。無恥な人は憶面なく振舞ふ、彼等が動けば動くほど、惑亂と罪苦とを漲らせる。前者は光の聲を聽けども、その聲に心と身と生活とを委ね、從はせることの出來ぬ人です。後者は聽けども故らに心の耳を閉ざし、我慾の滿足を追求して居る人です。何れにも悲しみがあり、災ひがある。何方も危いことだと思はれます。

そこで、もう一度、前に返つて、此の問題の發端から調べ直して見ませう。

もし私達が世間的道德に全く反すまいとし、誰から見られても、神樣から見られてさへも、決して惡や不正にくみせず、善事善行の人であるやうに願つたとするならば、どうしたらよいでせう。自分がせぬ許りではなく、不正と思はれることをして居る人と交り、その人から一杯のお茶を呼ばれることも不正ではないでせうか。『周の粟を食まず』と言つて、伯夷叔齊と共に首陽山にかくれて蕨を食つて居らなくてはな

らんことになつて來ます。さうして山に入つた處で、その山も亦周の天下なら周の山です。その蕨も周のものなら、その立つて居る土地も周のものです。最早そこに居ることも出來なくなります。

あなたの托鉢の場合では、どうなりませう。その塵芥（ごもく）のことを考へる前に、もう一つ考へて置かねばならん問題があるやうです。あなたが呼ばれたお家は、たしかお妾さんの住居でしたね。』

『さうです。』

『今の世の結婚道德から見て、妾といふ生活は正とされて居るでせうか、不正とされて居りませうか。』

『それは不正とされて居ります。』

『もしそれが不正なものであるならば、嚴格な道德家は、お妾さんの家に行つて働くことや御飯を呼ばれることは出來ぬわけになりますね。』

『えゝ、さうです。』

『さうすると、その道德家はお妾さんの家へは托鉢に行けぬことになりますな。同じ批判の眼を以て、その道德家は商人の家へも、お醫者さんへも、お寺へも、金持へも、貧乏な家へも、何處へも托鉢に行けぬことになります。私達が商賣屋さんへ呼ばれて行く、さうして番頭の仕事を托鉢させていただくとする。御主人は言ひます、此の品物を一圓で賣つて下さい。仕入れは五十錢ですから、七十錢位に賣ればよいのですが、仲間一般の規約が一圓に賣ることになつてゐますから』と。さうすると、早い話が、三

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

十錢はその店が社會に對して泥棒をしてゐる勘定になります。道德家は早速腹立つ、『怪しからん、此の家は俺に泥棒をしろといふ、俺はいやだ。』此のやうな種類のことは、現代では經濟問題の一つとして問題となり、研究されてはゐます。けれども、現代社會の一般道德からは當り前のこととして、その商人を世間は不道德者とは呼びません。

世間が許して居る不正ならば、『道德家』はその不正を許すのであらうか、世間が責める罪ならば、その『道德家』は、その尻馬に乘つて共に鞭を加へるのであらうか。

一燈園生活と言はず、一般に、尠くとも、何等かの意味で道と名づけられる生活に於ては、此のやうな相對的善惡に閉ぢ籠もり、それを追ひ廻はすことではないわけです。もし、善惡といふ側面から觀察するならば、私達はその善惡の源の源たるものから始めたいものです。

善の善たるものとは一體どんなものでせう。

此の世に現はされて居るものゝうちに、絶對に微塵も惡の面影を止めて居らぬ善なるものが、果してあるでせうか。これこそはといふものでも、もし私達が少し意地惡い眼で眺め、理窟張つた頭腦で批判すれば、そこには必らず惡の分子と稱するものをあばきだすことが出來るでせう。

そして、更に亦省みられることは、その觀察し、批判する私達自身の眼であり、頭腦であります。それがはたして、少しの曇りもない清朗透徹なものであらうか、自分の我見我慾を微塵

も交へぬ觀察をし、判斷を下しうるほど澄んだ正しいものであらうか。かう考へて來ると、私には可成り危くなります。

自分に都合のよいことならば私達は『よし』といふ。都合の惡いことなれば『わるし』といふ。明に善いことにさへ『わるし』と云ひ、惡いことにさへ『善し』といふことも決して稀ではありません。

また、或ひは、これほど意識的主觀的でなくても、私達の批判が、はたして究極的に誤りのないものか奈何かは肯はれえぬことです。私達の心の中に、我見我慾が少しでもあるならば、それから出た批判は絕對價値ではありません。私達の性格がまことに眞純でなく、智慧が一切の實相も知る光の智慧に惠まれて働らいたものでないならば、その批判は絕對價値と言ひ切ることは危いことです。

それでは、此の世には善惡はないものであらうか、私達は道德を無視した生活を立てゝよいのか、といふ疑問が出るでせう。

絕對の善惡といふものが、有るか奈何か、私は知りません。けれども、私達の心の中に、その善惡の紀念が存在し、それを求める心が常に働らいて居るといふことは事實です。どんな惡人と呼ばれる人の心の中にも、矢張り善を愛し、惡を憎む情はあります。此の心が佛ともなり、神ともなり、また無間地獄のどん底からでさへも救ひ出さるゝその救ひの種子ともなるのだと思ひます。

棄恩入無爲是眞實報恩底也といふ言葉があり

ます。此の棄恩入無爲とは、單に父母妻子に對する恩愛の情を棄てるといふ夫れだけのことではありません。人間としては斷ち難い父母妻子の恩愛の情さへ棄てゝかゝらねばならぬのは、そのもう一つ奥にある此の究極の問題を究めずには濟まされぬサムスイングがあるからです。善惡の問題もその究極なるものゝ一つの現れです。この心を道心とも言ひ、發菩提心といふ。これによつて立て直された生活を道の生活といひます。

道の生活とは恩愛を棄てゝかゝつた生活です。また世間的意味の善惡を捨てた處から始められる生活です。棄てるといふのは、何か凄い感じのする言葉です。けれども、それは畢竟して完成成就することです。

世間も善惡も、恩愛も、捨てゝ、捨てゝ、捨て抜いた形が、結局はこのまゝでよい事になるかも知れません。形はこのまゝの世間と變らないことになるかも知れぬ、ならぬかも知れぬ。何れにしても其のこのまゝは、同じこのまゝでも所謂このまゝでは恐らくないでありませう。

もし、此のまゝでよいのならば、そこには何の苦惱も艱難も、爭ひも憎みもない。すべてが和らぎ調和し悦べ礙りない生活が出來て居らねばならぬわけのものです。處が事實はさうなつて居らぬ。人あり、言ふかも知れぬ、『お前はさういふが、此の世界は、此の通り、すべてが調和し、すべてが輝いて居るでないか、』と。その人はその境地まで到りえた人なのです。私達自身のうちに少しでも不調和が見られるなら

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ば、私達自身はこのまゝではよくないのです。

こゝまで來るともう、誰彼の問題ではなくして私達自身の生命に、生活にまで差し迫つたギリ〳〵の問題となります。このまゝでよい生活を一箇半箇でも實證した人があるならば、一層のこと、私達は、一切衆生のためにも亦自分自身のためにも、足りぬだけのところは懺悔に懺悔して、托鉢せねば居られぬことです。

一燈園生活に入るまでには、そこにいろ〳〵の複雜な批判もあり、觀察もあつたことです。けれども、覺悟して此の生活に入つた私達としては、最早審さき、論ふ生活であつてはならぬこと。よいかわるいか、それも解らぬが、一先づは敎へられた道に隨つて、諸緣を放下し、三昧に修行させていたゞかねばならぬことです。

私達一燈園生活者としては托鉢三昧行です。托鉢三昧になりえて居らぬ、それだけ私達自身の修行が練れて居らず、未熟なことを表明して居るのです。恥しいことです。光に祈り、天香さんに敎へ導かれて居り乍らも、而も猶私のやうな下根不機の者は、人を審いたり、あげつらふたり、嫌つたり、執着したりのみしてゐます。

理窟はいろ〳〵につくでせう。けれども、私達一燈園生活者の正修行としては、一旦は此の托鉢三昧に尠くも近い境地までは往きえた上のことでなくては、他の誰人をも決して審くことは出來えぬわけです。さうして恐らくは、托鉢三昧を通した上に開けた境涯に於ては、もはや他の善惡を審いたり、爭つたりする必要のない境地が惠まれてくるやうに覗はれます。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

天香さんから教へられた此の一燈園生活、托鉢の道は、眞實の救ひの道だと私は信じて居ります。兎も角も、托鉢三昧に到り得たく念願してやみません。よろめいたり、躓いたりしつゝも、天香さんを三世の師と仰ぎ、賴んで、修行させていたゞいて居るのです。』

『よくわかりました。ありがたうございました。』

私の言葉が終つた時、Kさんは言はれました。『私がみんな惡かつたのです。彼の御婦人に對してばかりではなく、私は今までに接したすべての人に濟まないことばかりしてゐたやうに思はれます。自分が少しばかり道德的であるがために、反つて、人を害け苦しめたことが、どんなに多かつたかと思ふと、本當に恐ろしくなつて來ました。』

『本當にさうです。私達は自分のした少しばかりの善事善行に己惚れると、直ぐ、人を責めたい心持が發ります、俺はこんなに善い事をしてゐるのに、彼奴（あいつ）はあんな間違つたことをしてゐる、と。さうして、爭ひと滅びの種子を蒔く。如實を知る眼が觀たならば、その善人振つてゐる私達自身よりは、その善人に責め苛まれて居る惡人の方が、まことはどんなに善人であるかも知れぬことです。』

夜が更けたので、私達は、おやすみ、を言つて、寢床に入りました。枕に頭をつけた時、纏りのない寂しさがしみ〳〵と湧いて來ました。さうして慚しい愧しい自分の相（すがた）がまざ〳〵と眺められるのでありました。（たはり）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

筑紫夜話

柳原舜祐

私は只今福岡の町はづれに住居いたして居りますのと、編輯部のお方から、寄稿の嚴命をいたゞきましたのとで、自分の力に餘ることとゝは承知しつゝも、暫くかう云ふ題を掲げて、折に觸れての感想を述べさせていたゞきます。紙面を惠まれます範圍、並に私の力の堪へます範圍に於いて、暫時繼續させていたゞきたいと存じます。

（一）　生活の三つの態度

私はこゝに述べますやうな生活の三つの態度と云ふことに就いて、常々考へさせられて居ります。豫じめ其の大略を申しますならば、第一は空間的生活であり、第二は時間的生活であり、第三には時空を超越して、自己本來の面目の最も深き內面に基礎を置かんとする生活であるとも、申すことが出來るかと存じます。

世の中には、兎角人生の意義を、極めて輕く解釋して、太く短かく、且は面白おかしく、暮して行くことを以て、至上の生活であると考へる方も尠くありません。すべて肉體的快樂に最後の價値を認めたり、又は現世に於ける物質的榮華に慕ひあこがるゝ暮し方の如きは、此の部類に屬せしめてよいかと存じます。例へば、かの李太白が、天地は萬物の逆旅(げきりよ)であつて、光陰は百代の過客である。にも係らず浮世は夢の如く儚(はかな)いものであつて、懽(よろこび)を爲す時とし云へば極めて短かいものである。古(いにしへ)の人が、燭(ともしび)を乘りて、

夜も遊べるは、良にもつともなことである。と詠嘆いたしました心の態度や、又は、藤原道長が、この世をば、我が世とぞ思ふ、望月の、かけたることの、無しと思へば、と揚々と歌ひ出でましたる得意振りなど、まさしく此の種の生活の典型と見てよからうと存じます。

私共は漸く學校に行つた許りの頃から、所謂芳名を千歳に傳ふることの、人生最高の榮譽たるべきことを敎へられて參りました。さればにや孔子は、身を立て名を揚げ、父母を後世に顯すを以て孝の終りなり、とも申されました。然しかくの如きは、すべて自己の存在を、後代の人類に記憶せしめて、その時間的繼續を圖らうとするものでありますが故に、私は是を第二の部類に屬させたいと存じます。

苟くも私共が肉體を有して居ります限り、私共は全然是を無視する譯には參りません。されば若し是を高尙な形で申しますならば、古來快樂說とか功利說とかゞ、倫理學上に重要な地位を占め、又は材貨の生產及び分配に關する經濟學上の論事が絕へず反覆せられて居るのでせう。若しまた是を卑近な姿に於いて見ますならば、病氣の平癒や、商賣の繁昌を保障する現世利益本位の宗敎が容易に跡を絕たなかつたり、自己本位の强者の貪欲と、同じ態度の弱者の反抗とが、隨所に血の雨を降らして居るのでせう。私は以上の如き色々の現象を目して、決して無理だとは存じません。少くとも私共が自己の意

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

義を其の肉體的又は物質的存在の上にのみ見出さんと致します限りに於いて、それは本當に當然なことであると存じます。けれども然し、私共の知る限りに於いては、古來未だ嘗て、すべての人々のかくの如き物質的欲望を、蟠りなく滿足させて呉れた時代は無かつたやうですし、且將來とても（少くとも私共の生存し得る將來に於いては）容易に出現しさうにも思はれませんので、物質的制度の革命のみに依りて、理想國を將來せんとする人々の豫約を信じて、現實の自己の生活の態度を變更する心持にはなれません。

又神の全知全能及び絶對愛を信ぜんとする私に取りましては、自己本位の祈願に依りて左右せられるやうな、神の價値を信憑する心持にもなれません。

第二の態度は、第一の態度に比して、一見甚だ崇高なもののやうに考へられます。さり乍ら仔細に考へて見ますと、人間の記憶の力には凡そ限りがあります。そして永劫の時の流れの中に、生れては死に、生れては死する人々の數は無限です。或は眞の意味に於ては無限では無いかも知れませんが、少くとも、人類の狹小なる記憶力に比較する時は、無限であると見てもよいと存じます。無限を有限の中に攝めることは不可能です。隨つて一定の人々が、自を立て、名をあげ、父母を後世に殘し得んがためには、其の他の人々は悉く忘却線の下に沈下し行かねばなりません。若しそれ古往今來幾千年、史乘

の價値に對しては、今更寸毫の疑を挿むべき餘地とてもございません。又史上に名たる聖賢偉人達の業績に對して、尊敬の意を献ぐる點に於ても、私は決して人後に落ちないことを確信いたします。さり乍ら私の考へて見たいのは、歴史に殘る殘らんと云ふことは多くは偶然の結果であつて、さう云ふ人々のさう云ふ業績の依つて起る、根本の動機に照らして見るときは、決して第一の目的では無かつたらうと示ふことゝ、世の中には、歴史と云ふもの又は、よしや正確な意味の歴史でなくとも、それに類似したる口碑、傳説、物語り等から、全然埋沒忘却し盡されたものゝ中に、人間としての眞に意義ある生活を營んだ人々宗教的の言葉を用ゐますならば、神の前に於ける最高の座席を分有した人に盛名を垂たるの人、之を曾て生存せし全人類の數に比べましたならば、果してどれだけの割合になるでせう。私は第二の態度に對しては、第一の態度に對するより以上に、其の可能性の乏しさに失望せざるを得ないのです。且又よしんば其の目的を達し得たとしましたところで、それが現在の私共の生活と、どれだけ交渉を有し得るかと考へます時、益其の賴むべからざるを痛感せざるを得ないのです。

既に第一の態度にあきたらず、又第二の態度に望を失ひました以上、私としては第三の態度に、自己の安住の地を求むる外致し方ありません。

釋尊とか、孔子とか、基督とか云ふやうな方々

々の、決して少くなかつたであらうと云ふことゝです。さう云ふ人々の關心の中心は、恐らく空間的に自己を擴げることでもなければ、又時間的に自己を伸ばすことでもなくて、只純眞なる自己本來の自然、(それは即ち天地の眞理又は神の意志と統合融和して居るものであると私は信じますが)に隨順して、懺悔と感謝、恐懼と法悅との交錯せる刹那々々に、無限の意義を感得しつゝ、悠然として其の生を樂むことゝであつたらうと存じます。勿論數多きさうした人々の中には、自ら之を意識した方もありませうし、又意識しなかつた方もあることでせうが。

第一の態度が物欲本位であるならば、第二の態度は名聞本位であると云へます。二つのもの互に異つては居りますけれども、時空の中に制限せられたる自己に執着することに至つては同じことです。第三の態度は、若しその權威を傷けずして、自然に兼ね合せ得る時に於ては、敢て第一及第二の態度を排拒するものではありませんが、而も如何なる場合に於ても、決して之に執着せざる點に於て、超然として時空の外に立つて居ります、時空の外に立つて居りますが故に、求むる心だに切實でありますならば、何人と雖も無競爭に獲得することが出來る筈です。それのみならず、一度び之を獲得しましたならば、そこから生ずる無限の興趣は、渾々として盡きず、到底味得前の想像を以てしては、思ひも及ばぬ程、深く且大なるものがあるでせう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

私の郷里(山口縣玖珂郡坂上村字長谷)に柳原眞壽美(ますみ)と云ふ一人のお爺さんがありました。(私と同姓ですが、血縁はありません)。名前だけを聴きますと、何だか偉い國學者でゞもありさうですが、實は文字通りに無學文盲の農夫でした。にも係はらず、其の日常の行爲には、得も云はれぬ尊いものが輝いて居りました。其の一家の勤儉と勉勵とは、村でも有名なものでした。眞壽美さんの宅では、一斗の石油が二年以上も有つたと云はれます。其處の家の名を村では、ヌタが原と申しましたが、それに因んで村にはヌタ原草履と云ふ言葉がありました。それは一家の人々が、夜な夜なの副業に、草履を作つて賣り出されたのですが、其の數は隨分夥しい額に昇りまして、村の茶店にぶら下つて居る草履の殆んど全部を占めて居りました。作製に念が入つて居りましたので、誰もが特に指定して求めたものです。一事が萬事で、その他百般の事物に就いても、すべて質素と勤勉との二つの要素が、經となり、緯となつて居りましたので、生活は素より相當豊かでありました。

かうした人によくあるやうに、眞壽美さんは其の風彩に就ては極めて無頓着でありました。餘り極端かも知れませんが、手拭を持たずに風呂に入られるとの噂さへもありました。けれども其の眼付きや口もとには、何時でもにこ〳〵とした、春風のやうな柔和さが漂うて居りました。眞壽美さんの最も偉かつたことは、常に公私に係らず、他の爲めに盡して、時と金とを惜まれないと云ふことでした。私の記憶に殘つて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

居る眞壽美さんは、何時も穢い風をして、足場の惡い田舍道を、テク／＼と步いて居られる姿でした。眞壽美さんに依りて救はれた家族や個人の數は、蓋し想像も及ばはい程の大したものでありました。

殊に眞壽美さんが、寢食を忘れて骨を折られたのは、學校に關することでした。忘れも致しませんが、日露戰爭でした。ある嵐の晚に、相當たかつて舊校金が、極度に傾斜して、到底使用に堪へなくなりました。處が何分にも戰爭中のことゝて、村の豫算も逼迫して、急速に再築の希望もありませんでした。兒童は二ヶ所に分れた假校舍に通學して、一通りならぬ不便を無期限に忍ばなければならん運命にありました。

此の時に當り、幼きものゝ痛苦を見るに見兼ねて、奮然として立つたものは、外ならぬ眞壽美さんでした。たとひ如何なる困難が有らうとも、敎育のことは、一日も緩うすべからず、とあつて、率先して再築の議をおこし、校區の人々を勸說激勵して、用材を寄附せしめ、土工に從事せしめました。眞壽美さん自身は一ヶ年近くの日數を、雨が降つても、日が照つても、手前辨當で現場に出張し、又はいろ／＼と勸誘に出かけて、席温まるの暇もありませんでした。かくて村からは、僅々貳百圓足らずの補助を受けたゞけで、勿論輪奐の美を誇る迄には行きませんけれども、兎も角舊校舍に比較すると、間違へる程完備した建築が成就せられました。

その後と雖も、眞壽美さんの公私に對する各種の盡力は繼續せられて、何等の變る所がありませんでした。今から三四年前目出度く往生の素懷を遂げられたと承はりました。

眞壽美さんは、本當に美しくも貴い方でした。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

私は何時も私の郷里のことに就いて想ひ起しますたびに、眞壽美さんの存立せられたと云ふことに就いて、有難い思ひを致します。其の眞壽美さんも、今は猶村人の暖い氣憶の中に抱かれて居られますが、それも何れ暫くのことであつて、一二の世代を經ます間には、恐らくさうした貴い魂の存立したと云ふことも、全く忘れ果てられることであらうと存じます。

然しながら、如何に忘れ果られて、人々の意識の表面からは、消滅せられませうとも、その存立せられたと云ふ嚴肅なら事實、並に其の事實を原因として、發展しく所の大きなる影響が、神の意識の中に攝められて、私共の意識生活の根底又は背景となつて居るだらうと云ふことを、私はどうしても疑ふことが出來ません。

そして眞壽美さんの如き人格は、決して私の村の特産ではなくて、何れの時代にも、何れ里にも、必ず有ることゝ存じます、そして又私はかうした人々の生活の中に、さながら聖賢の生活の中に仰ぎ見るのと同じやうな、生活の第三の態度を發見したいと思ふのです。

思ふに私共の生活して居ります世界が、都合よくなつて參りましたのは、著名なる偉人の指導に俟つことも素より尠くないだらうと存じますが、それよりも寧ろ平凡なる日常の業務に勤しみ通して柔和にして、敬虔な心に同胞の幸福を祈りながら、默々として音もなく消えて行つた、數多い隱れたる善人達の努力の總和に俟つところが遙かに多いだらうと私は信じます。そして私共が眞に虛心謙讓なる心持に徹することが出來ますならば、それと同時に私共はかうした態度の生活のなかに人生最高の意義を見出し得るではなからうかと存じます。（一四、二、二一）

天香師にあてたる（一）

鈴木五郎

此の頃大分感冒がはやるようでございますがお障りはございせんか？こちらはかぜひきで女の方が全部倒れてしまつたので、御主人の愚徹居士が御掃除役、私が御炊事役を受け持つて、諏訪湖のスケートよりはもう少し活動致して居ります。然し今日あたりから皆さん大分よくなりましたから御安心下さいませ。

其の間にもお光は絶えず深い御恵を垂れてゐて下さいます。此の頃内「自他一體」とか「我が心は宇宙を包む」とかいふ問題で御忙しい處を度々おひまさきを致しまして誠に相濟まぬことでございましたが此の三四日看病やら御炊事やらで何を考へる暇もなく、夢中になつて托鉢してゐた間のことを振り返つて見ますと、其處には自もなく他もなく、我もなく宇宙もなく、包む者も包まれる者もありませんでした。此處で愚な私は始めて氣が附きました。「あすこにこそ本來の面目があるのだ。今までのは矢張りあたまで考へたものに過ぎない。」と。

夢中で働いてゐる間に、お光は氣も附かせずに最後の關所を通らせて下さいましたようでございます。これでほんとうに何時死んでも有難いような氣持が致します。有り難いことでございます。

それもこれも總て尊き師のお導きの賜でございます。

殊に昨年夏田村様に寄せて頂いて以來愚徹居

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

士の無字に觸れて、私の深い迷ひの雲が一枚づゝ剝ぎ取られて、此の五年越しの一燈園生活の總決算をさせて頂いてゐるような心地が致しまして誠に有り難いことでございます。

どうぞ尚ほ尚ほお氣附のことはお閑暇の節お聞かせが頂けましたならば仕合せの至りでございます。

どうぞ道の爲めにおからだをおいとひ下さいませ。至らぬ私が此の正念を常に持ち續けることが出來ますようにお祈り添へ下さいませ。

さよなら

本來の面目

此頃　しきりに
自他一體とか
我が心は　宇宙を包むとか
考へていたが
家中　流行感冒に倒れたので
忙がしく　夢中で働いた後で
ふと　氣がついた
「本來　自もなく　他もなく
一體になるべきものもなく
天地一枚
言說絕す。」と

天地一枚

天地一枚
陽は昇り
風は吹く。

働く者の家より

敬 偉 無

●東京一燈園社會部の經營にかゝる「働く者の家」わ相變らずの繁昌にて、毎夜百人ぴつちり宿られ、尚幾人かをお斷り申さればならず、中にはお氣の毒すぎて何とでもしてお宿をしなければすまないやうな方もこれあり、やむなく前庭のバラツクに手入れして「光の友の宿」といたし候。宿乞ふ人わ殆んど無限とゆうべく、最寄の交番から眞夜中に紹介されて來ることなどもこれあり候。さわれ、乞わるるまゝにお宿をするがよいかどうか、ずいぶん考えものにて、小生共としてはお互い德を亡ぼさぬよう念じて扱わしていたゞく外ござなく候。

●酒癖のよからぬ方には、よき修行を積ませられ候。酒わ何日の世より用い習われし不可思議物に候ぞや。このあたりにてひさがるゝ酒の味、決して舌によからず、たゞ醉心地をこそと、一所に風呂にひたり候折など、よく宿泊者の方々から聞かされ候。醉心地はいかにも結構に候わんも、醉うて怒り罵り亂し氣轉倒し自他を傷つけて恬然呆然たるに至つてわ、小生は遂に言ふ所を知らず候。

●不休不斷こうした方々に直面さるゝ谷田部兄に合掌され候。天香師このほどお見えの折、兄が爲めに染筆され候わ「慈悲兼正義而全」の七文字。善哉、々々。

●春立ち候にや、雪降るわまだ寒中にてあらんか。青きもの一つ目に入らざる「働く者の家」の窓外のながめわ決して人に可ならず、同人一同、紀元の佳節を玉川べり久地の梅林に春のおとづれたづね候わゆるさるべくや。

◆本號表紙題字　京都鹿王院藏崇光天皇宸翰より頂く。

仰光臺雜詠

柳 原 舜 祐

靜かなる　秋の光の　中にうかぶ　眞白
木槿の　花のゆかしも

看經(かんきん)の　あさのしづけさ　はつあきの
あかつきがたの　雨のおときく

取りたてゝ　語りいでなん　こともなし
よろこびてたゞ　日をば經るなり

しづに澄む　秋そらのもとの　わがむ
れに　ゆたに久遠(くおん)の　いのちあふるゝ

ともしびは　みだれうつれり　はつ秋の
博多の町の　汐みつる川

大海の　濤(なみ)の遠音を　文机(ふづくえ)にむかひてひ
とり　おごそかにきく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

クリスト教社會主義史（四）

松　下　吉　衞

この工場閉鎖事件は、規模の大なるに於いて空前の勞働爭議といふべく、事のおこりは、機關工聯合會が時間外勞働と賃請仕事の廢止を、一八五一年八月、會員の投票に問うたのに始まる。投票の結果は、會員一萬一千八百人の中、廢止を否とするもの僅かに十六人を數へるにすぎなかつた。當時、二萬五千ポンドの基金を擁して雇主側との鬪爭に十分勝算の自信があつた聯合會は、直に會員全般に同年十二月三十一日を期し時間外勞働と賃請仕事を斷然廢止すべき旨、通告を發した。雇主側でも、夙に全國勞働組合の大合同がやかましく論議された一八三四年以來、勞働者の大同團結をいたく危險視してゐたので、機關工聯合會の出現にあつて、神經を惱ますこと一ト通りでなく、機會だにあらばこれを粉碎せんと待ち構へてゐた矢先であるから、聯合會よりの挑戰を幸ひ、十二月十七日、一篇の通牒を發した。曰く、『若し十二月三十一日にストライキが起るやうなら工場は閉鎖されるであらう』と。彼等は、また、タイムス紙に辯明書を公表して、勞働者の要求するところのひとり時間外勞働と賃請仕事の廢止に止まらず、尚、賃銀の平等と自働機關にも熟練工を雇用すべき條項をも含むとなしてゐるが、後半の記述の虛構であることは言ふまでもない。十二月二十四日、雇主側は大會を催して、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

公然機關工聯合會の要求を拒絶して來た。之れに對して、聯合會の方でも、十二月三十日、公開の集會を開いてその席上彼等の要求は、長年月間の懸案である時間外勞働と賃請仕事に限られて居ることを説明し、且この問題を仲裁に附したい旨申しいでた。しかし、何等の回答もきかれなかつた。一八五二年一月一日、彼等は十二時間の正規勞働の後、更に時間外勞働を命ぜられたが之れに從はなかつた。その結果、一月十日、工場閉鎖は行はれ、ランカシアーとイングランド南部地方の三十六個の會社は作業を停止することゝなり、機關工三千五百並に組合に屬しない不熟練工約一萬二千の者が職を失ふにいたつた。機關工聯合會は充分自信ある態度をもつて戰端を開いた。初め戰局はさのみ困難でなく見えた。しかし、雇主側の決心は牢乎たるものがあり、この爭議をもつて單に局部的小事件でなく、その結果如何によつては、雇主の產業統制權全般に影響を及ぼす重大問題であるとなし、勞働者に無條件降服を强ひ、將來如何なる勞働團體にも入會しないといふ誓約書に署名するものでなければ斷じて復業を許さない旨宣した。——これ取りも直さず、勞働者の團結權を認めた一八二四年の法令を無視せる暴行でなければならない。かうして爭議は互角の勢を持して三月まで續けられたが、この時、聯合會の基金が殆んど使ひ果たされてしまつてゐたので、萬策つきて一人また一人と雇主側に屈服するものを生じた。たゞ最も頑强なる者だけが能く翌月まで踏み止まつたけれども、その慘狀は實に目もあてられぬものがあつた。遂に、四月中旬にいたり、勞働者側が雇主側の宣言の撤回を條件に彼等の

回章を取消し時間外勞働と賃請仕事に服する旨申しいでたのに、雇主側の石の如き心は頑として動かず、爭議は玆に勞働者の全然の敗北をもつて終りを告げた。餓死か、隷屬か、乃至は僞誓か？聯合會員は第三の道を選むの外なく、誓約書に署名して復業はしたが、聯合會そのものは依然として存續した。

この勞働爭議こそクリスト敎社會主義者の眞價を判ずべき絶好の機會であつた。彼等は、暴力への訴へが浪費と困苦とを伴ひ、資本對勞働の關係に痛ましき決裂を生ぜしめることを憂として、常に之れに反對の態度を持して來たのであるが、此度の事件では、勞働者側の主張の疑ふ餘地さへないまでに正しいことを認めてゐたので、設立者協會そのものとしてではないにしても、會員大半のもの協力して健闘に努めた。

彼等が最初の企ては、聯合會の指名した仲裁人の一人であるアシバートン卿を通して公正を得た解決をもたらさんとするにあつたが、不幸にして何等の效果をも擧げ得られなかつたので、外部よりする援助の賴み少なきを覺り、矛先を變じて、機關工の要求をあるがまゝに公開し、輿論の判斷に訴へることにした。ヒユーズ、ニール、ラツドロウ等、大いに論陣を張つて、雇主側に買收された新聞の曲筆や一般世論の迷妄と惡戰苦闘した。彼等の所論は容易に人々に聽かれなかつたが、勞働者達にはどのくらゐ力になつたか知れなかつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

設立者協會内部に幾分意見の一致を缺いてゐたことも、その運動の支障とならないではなかつた。即ち、キングスレーは、はつきり、仲立的態度を可として、その趣旨で『秩序の友は誰ぞ』といふパンフレッドを書いてをり、モウリスまた、若い同志の人々が各意見を自由に發表することを寧ろ熱望してはゐたものゝ、彼れ自身の具體的對策は用意してをらず、資本家に對する宣戰の布告は彼の最も嫌忌したところであつて、勞働者には滿腔の同情を表しながら、その闘爭の實際的援助については勢ひ微温的ならざるを得なかつた。されば勞働者との交渉は、自然、ラッドロウ、ニール、ヒユーズ等三人に任せられるにいたり、その對策も彼等の手に成つたのである。

對策とは要するに協同組合設立の提唱に外ならなかつた。彼等は、この機を利用して、協同組合の原理に本づいて勞働を組織し、聯合會の基金を自治的工場の創設に充て、以つて雇主達にその助力なしにも大工業の運營の可能なるを實證することこそ、はてしなき勞資の爭議に終りを告げしめる確實なる方策であるとなした。彼等は、尚、賃銀制を以つて奴隷制度の遺物に外ならずとなし、同一種の協同組合は、中央委員會によつて支配される一つのギルドに統合され、ギルドはまた各ギルド選出の代議員より成る統制機關に總轄されるやうになれば、社會の全産業系統は根本的に改革さるべく、かくて初めて、同心一體の崇高なクリスト教的原理が、嫌惡すべき排他的競爭制と置き換へられるであらうと説いた。

クリスト敎社會主義者の勸說に聽いて、機關工聯合會の執行委員會は、一月六日（一八五二年）、協同組合設立のために基金のうち一萬ポンドを支出することを議決した。しかし、爭議が長びいた爲めに、この議決は實現されずにしまつた。聯合會が爭議に費した總額は四萬ポンドの多さに上り、前記の一萬ポンドを含めて聯合會の基金全部が使ひ果たされたので、若しゴデリッヂ卿の好意によつて爭議最後の週間に一千ポンドの前借が出來なかつたとすれば、恐らくは聯合會の崩壞は免れがたかつたてあらう。

されば、クリスト敎社會主義者はその抱負を遂行せんとすれば、今は、彼等自ら一切の準備に任ぜねばならぬ次第となつた。これにつき、彼等の非常な力となつたのはオーガスタス・エー・ヴアンシッタート OugustasA, Vansittart であつた。彼はニールの從兄弟にあたり、勝れた才能を有し、可なりの資產を擁してゐた。一八五〇年の春以來、ニールと共にクリスト敎社會主義の運動に加はり、設立者協會の一員であつて、或る期間その會計を勤めた。一見、冷靜な性格者のやうであるが、實は底力があり且犧牲的精神に富んでゐた。彼れ、一度、工場閉鎖の大爭議に直面して、締出しをくつた夥しい勞働者の目もあてられない慘狀に接するや、奮然起つて協同組合設立の資金を提供することにしたのである。

恰もよし、この時、ジョン・マストー（聯合會々長ヂヨセフ・マストーの弟）に率ゐられる一團の機關

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

工があつて、此の種の提供を待つてゐた形であつた。彼等がサウスワーク機關工組合を組織し、協同生產事業を營まんとする企圖あることを耳にしたヴァンシッタートは、彼等と相知るにいたるや、彼等のために、マイル●エンドのケンブリッヂ●ロードに一つの工場を手に入れてやつた。この協同組合の基金管理者はヴァンシッタート、ゴッデリッチ、ヒューズ及びブリッグデンなる人であつた。第一回株主總會は三月六日(一八五二年)工場內で開かれ、規約の討議と役員の選擧とを行つた。組合の根本組織はウインドソーア鐵工場のものに範をとることにし、多少の訂正を施したが、その主要な個所は、各組合員が組合の固定資本に寄附すべき五ポンドは組合より脫退の場合にも返濟されないし又全然無利子であるとの規定であつた。組合員の資格を機關工聯合會員に限るべきや否やも論議されたが、決定を見ずして止んだ。次に四名の理事が擧手によつて選任された。しかし、理事長の選擧は適任の候補者が得られるまで延ばすことにした。機關工聯合會は、この總會に代表としてニウトンとヂョセフ●マストーとの二氏を送つて衷心からの賛意を表させた。四十名乃至五十名の機關工が組合の工場で働きたい旨、申出でがあつたが、中、二十二名だけが、さうすることになつた。注文も可なりにあつた。少しばかりごたごたがあつたが、結局、ヂョン●マストーが理事長に選ばれた。

ニールも亦エマーソン街のサウスワーク橋畔にアトラス製作所と呼ぶ一小工場の賣物を見出したが、これは聯合會の事務所に半哩もなく監督上便宜だといふので、直ちに買收の手續を了して協同組

合を設立することにした。三月二十五日(一八五二年)事業は始められ、機關工の投じ來つたものが夥しい數に上つた。聯合會の幹部が全力を傾けて種々援助するところあつたのは勿論である。設立者達は、今や、黄金時代に處しつゝあるかに見えた。即ち、從來、彼等はその抱懷する理想を、最下級の勞働者——虐げられ誤たれ如何なる形の協力にも全く無經驗な人々の間に實現せんとして效果なき苦鬪を續けて來たのであつたが、今、漸くにして、協同運動の開拓者であり工場閉鎖事件から勞働階級の指導者として一般に認められるに至つた所謂勞働貴族の賛同と後援とを得るに成功したのである。嘗つて裁縫職や靴直し工に適用して好結果を擧げ得なかつた新制度——協同生産組合も、機關工なら必ず相當の成績をあげるだらうと思はれた。ニールが、吾が時來れりと叫び、一身の安泰とを顧慮して徒らに逡巡すべきでないとなしたのは、寧ろ當然であつたといへやう。

機關工聯合會幹部の意氣ごみ亦特筆に値した。聯合會執行委員會を代表して、ダブリユー・アランは、四月二十六日附をもつて、實に左記の如き書簡を一般會員に送つてゐる。

『吾等は來らんとするに時代に具へるために如何に進むべきか?たゞ一つの道がある——協同生産の事業、即ち是れ。……吾等は、單に資金の集積を以て足れりとせず、尙これを再生産的に使用しなければならないことを學んだ。もし吾等のこの構想を實際に適用して過誤がないとすれば、兩三年を出でずして、吾が全土は勞働者に屬する工場をもつて點々飾られるに至るであらう——この工

場こそは、利潤が勞働者を强壓する代りに之れを勇躍させ、暴戾な資本家の威力を以てしても彼の忌むべき布告類を門頭に揭示することが許されず、而して勞働の機會が勞働の尊嚴と名譽を傷つけられることなしに公正に與へられる場所である。かくて、初めて、勞働者は、一ケの機械でなく、思想と感情とを有する人格として扱はれんとする主張を、有效に言明することが出來るであらう。而して、若し雇主達にして勞働者を害はんとして工場閉鎖の擧に出づるとしても、彼は最早過去幾年かの貯蓄を費消しつゝ、强ひられたる怠慢を甘受すべきでなく、精力を倍加して直ちに自分自身の工場に走り、他のいらざる助力に依ることなしに、仕事に就くであらう。これ吾等が熱禱の成就でなければならない。若し吾等がこれまでの運動に示したほどの熱意、確信、忍受を以てこの事業に對すれば、目的の貫徹されない筈はあるまい。……』

ついで、六月二日、全國合同勞働組合が、『今や勞働保護の手段として同盟罷業を絕對に不用とする時期が到來した。吾等が此後なすべき唯一のことは、組織を整へて、自給、協同、再生產を基調する產業制度を實現するにある。』と宣した時、クリスト教社會主義者は、工場閉鎖の艱難こそ實は新秩序への產みの苦しみであつて、彼等の努力と健鬪の報いられる日も遠くはあるまいと信ぜざるを得なかつた。當時の社會狀態の推移より考ふれば、彼等が不當に樂天的であつたとは言はれない。(つゞく)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

謹告

拜啓　同人機關誌『光』は從來東京宣光社名義にて發行致居候處今度宣光社の組織を改め發行及編輯の事務分擔を左記の通りに變更いたし候間さやう御諒承たまはりたく此段謹告仕候　頓首

大正十四年二月

伊藤猛　西田天香
西田保太郎　小此木渾沌
中桐確太郎　松下吉衛
（いろは順）

發行兼印刷人　京都市烏丸頭小山下總町五
回光社内　西田保太郎
振替　大阪五九八三九　東京五七六七一

編輯人　東京市本所區林町二ノ七八
松下吉衛

附記
誌代は　京都市　回光社へ
玉稿は　東京市　松下吉衛へ

編輯人から

本誌わ一燈園の同人光友の機關誌たると共に、一燈園生活そのものに對する自由眞摯な評壇たる使命を擔いたいと思います。もとよりこれ論を好むがためにあらず、吾等が本願の成就を祈ればのこと。されば、掲載記事に對する異見わ皆さんから腹藏なく發表していたゞき、私共の生活を、この方面からも錬りに錬つて、獨斷論に禍されることのない生命力の漲つたもの、最も嚴正な意味の批判に堪えるものに磨き上げ、人和愛の生活化と社會的正義の確保と兼ねて文化諸相の調整とに聊か貢献したいと願つています。（松下）

定價　一ケ月分　金二十錢　一ケ年分　金二圓四十錢　（郵税共）

大正十四年三月十日印刷納本
大正十四年三月十五日發行　（第三十九輯）

發行兼印刷人　京都市烏丸頭小山下總町五
回光社内　西田保太郎

編輯人　東京市本所區林町二ノ七八
松下吉衛

發行所　京都市烏丸頭小山下總町五番地
回光社
振替　大阪五九八三九　東京五七六七一

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

吉田暎二第一戲曲集

疲れた家

定價貳圓五拾錢
紙數三百三十頁
裝幀美本箱入

内容
疲れた家　兎と龜
道化　父

此處に納めた四篇は皆自分の習作に外ならないけれども、自分にとつてはどうにもならない問題のみを取扱つたものだ。『道化』では、「藝」と「家」、『父』では「家」と「道」との間の關係を取扱つた。「藝」に入るには、又「道」を修めるには、はたして「家」から出、家を捨てなくてはならないだらうか。それが正しいだらうか。自分にとつては可也大きな問題である。又「疲れた家」では現在の日本の中産階級のだらけきつた姿、無爲と困憊の内にしぼんで行くすがたを、比較的客觀的な立場から見つめさせて貰つた。いづれも藝術としては未熟ではあるだらうけれど、自分として取る態度と立場は今後と雖もこの小さな戲曲集より外へ出る事はないであらう。（著者）

發行所　東京市小石川區第六天町二四　段丘社　振替東京六四六七九番
發賣所　東京市日本橋區元柳町十　青々堂書店　振替東京四一八八三番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN